

# はじめに

学校長 河合茂治

昭和57年度より高等学校新学習指導要領が完全実施されて早くも一年半を経過した。高校全入時代を迎えて、中高教育の一貫性と教育内容の精選によって、ゆとりある充実した学校生活を可能にする教育課程の実現を目指しての改訂であった。しかしながら最近の教育荒廃は著しく、国民全般に学校教育に対する焦燥感が広まり、6・3・3制改革論や道徳教育の重視、学校管理態勢の強化、教員免許法の改正案、国定教科書制定論など様々な論議が展開され、日本の教育は重大な岐路に直面していると言わねばならない。

思うに、今日の教育問題の根底には、高度経済成長以来、熾烈な競争社会が組織化され、高学歴社会を形成して行く中で、学校教育が偏差値による人材選別機能を持つに至り、生徒の興味、個性に関わりなく進路決定を余儀なくされている所に、彼等の自立を困難ならしめ、心身の健全な発達を阻害する素因があるように思われる。

こうした現状打破の道は、学校教育のみでなく社会全体が改めて人間の存在自体を問い、真に生きるとは何かを根源から問い直し、自らの姿勢を正すことが先決であろう。同時に学校は人間教育の場としての機能を回復し各教科を通して学ぶことの意義を知り、人間としての真の生き方を学ぶ実践的教育方法を生み出すことが最重要課題であると思う。先導的役割を果すべき教師の責務は誠に重大である。本校がここに「高校教育研究」第35号の発刊を見るに至ったことは誠に意義深いものがあると思う。

本号に集録された論文は二分野に大別される。その一つは改訂学習指導要領に基づいた主要五教科各分野における教材、指導上の問題点等についての実践研究報告であり、広く渴望されていたものである。次に木村教諭の「世界史—事項—」は膨大な世界史の内容を限られた時間でいかに効率的に指導するかを現実の授業に則した教材構成論として、今回は先史時代、地中海世界、アジア世界について記述されたが、全世界について稿が完結される暁には、教科書としても使用可能な貴重な資料といえよう。

高等学校教育を取り巻く客観状況は誠に厳しく、教育実験校として、また教育実習生の指導、生徒の生活、進路指導その他、課題山積の多忙な日々の連続である。

本号はこうした勤務の傍ら地道になされた貴重は研究成果である。読者各位の忌憚のないご意見などお寄せ戴ければ誠に幸甚である。

# 高校教育研究

第 35 号

目 次

まえがき	河合茂治	2
改訂学習指導要領による教科指導		3
1 教科課程について	鉄車佳司	3
2 国語 I をどのように教えるか	鉄車佳司	7
—— 国語 I ・国語 II 年間指導計画表 ——		
3 国語 I の学習展開で総合性をどのように活かすか	鉄車佳司	17
4 地理 A 及び地理 B の総合としての新「地理」	小倉幸春	27
—— 現代社会・政経・倫理・日本史・世界史・地理年間指導計画表 ——		
5 学習指導要領改訂にともなう教学科指導内容	能崎克己 上田外志夫	38
—— 数学 I ・代数幾何・基礎解析・微分積分・確率統計 年間指導計画表 ——	石田三郎 岡嶋展子	
6 理科の教材・指導と問題点	倉庸康 中原吉晴	52
—— 理科 I ・物理・化学・生物年間指導計画表 ——	玉銜良三	
7 高校低学年における理解と運用の困難点の指導について	樫本英彦	58
—— 英語 I ・英語 II ・英語 II A ・B ・C 年間指導計画表 ——		
8 第11回高校教育研究協議会日程		66
die Weltgeschichte —— das Detail —— I	木村明人	67 ✓